

**Frontline
Report**

by EA Pharma Co., Ltd.

薬剤師の在宅訪問

池田薬局（福岡県北九州市）

**すべては患者さんの
“幸せな最期”のために****疾患をイメージして
先取り処方提案、
生きた題材を提示し合い
実践的な学びも**

13人の薬剤師を擁し、福岡県北九州市全域の在宅訪問に応需する池田薬局。在宅患者さんの3割は個人宅であり、緊急性の高い終末期の患者さんが多いのも特徴です。「個人宅へのサービスが基本」と語る池田薬局取締役専務の池田充宏先生に、その思いや取り組みを進めるうえでのポイントなど、在宅訪問を考えている薬剤師に向けてお話をうかがいました。

（取材日：2025年1月23日）

● どこを目指すべきか！

**個人宅に関われば
人としても成長できる**

今後日本が高齢多死社会を迎えるなか、自宅で最期を迎えたいという患者さんの希望を受け、在宅医療の需要は引き続き増加すると思われます。薬剤師の関与により、薬物有害事象への対処や服薬状況の改善などが見込まれ、在宅医療の質の向上につながることから、その果たす役割は大きいとされ、より積極的な介入が求められています。近年、医療保険の「在宅患者訪問薬剤管理指導料」、介護保険の「居宅療養管理指導」の算定回数はいずれも伸びており、全体として薬剤師による在宅患者への薬学的管理は進んでいますが、麻薬調剤に対応可能な薬局は約8割である一方、無菌製剤処理に対応可能な薬局は1割未満、24時間対応可能な薬局は約3割とのデータもあります。

池田薬局
取締役専務 池田 充宏 先生池田薬局 福岡県北九州市小倉北区白銀1-4-14
<https://ikedayakkyoku.com/>
薬剤師13名（うち非常勤3名、2025年1月現在）
調剤基本料1、地域支援体制加算2、連携強化加算

池田薬局はそうした課題にも対応しており、「在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料」の積極的な算定などの職能発揮により、「地域支援体制加算2」も実績要件の10項目をすべて満たすことができています。「24時間対応は、がん末期など重度の患者さんが多い個人宅への訪問には必須であり、個人宅を重視していれば、医療的ケア児への対応なども含め、自然と地域支援体制加算の実績要件もクリアすることができ、それが厚生労働省のメッセージでもあるわけです」と池田先生。ただし、決して経営的な側面だけからの取り組み

ではなく、「住み慣れた自宅で最期を迎えたいという患者さんの思いに寄り添い、自宅に帰ってきて本当によかったと、患者さんにもご家族にも思ってもらえることが、まさに醍醐味。だから、個人宅に軸足を置くのです。重度の患者さんが多い分、個人宅にはさまざまなドラマがあり、薬剤師としてのスキルはもちろん、人間としての幅も広がるように感じています」と胸中を明かします。池田薬局では、麻薬の注射にも薬剤師のほぼ全員が関わり、月20件を超える看取りにも対応しています。

● どこから始めるのか？

まずは一度現場を見て、 その空気を味わってほしい

薬学部を卒業後、製薬企業に勤務していた池田先生は、身近で大切な存在だった方が自宅で最期を迎えた過程に一度も立ち会えなかった後悔から、在宅医療を志すようになったといいます。その思いが、たまたま大学の先輩の耳に入り、先輩が愛媛県で積極的に在宅医療に取り組んでいた診療所と連携していた薬局薬剤師だったため、その診療所で4カ月ほど勉強する機会を得て、製薬企業を退職しました。

そして、2008年に北九州市にある実家の薬局に戻り、在宅医療への取り組みを始めますが、地元には特にコネクションもない状況でした。それでも、じきに医薬品卸から在宅医の紹介や情報提供などが受けられるようになり、次第に訪問看護ステーションやケアマネジャーなどからも声がかかるようになりました。紹介があれば在宅医などとはすぐに面会し、愛媛県で培った経験やスキルを地域に還元するような形で、活動は進んでいきました。当時、北九州市でも医療機関・薬局は手探り状態にあり、患者さんの疾患や状態に応じた在宅医療を、薬剤の専門家としての関わりを中心に、まさに

医師や多職種とともに作り上げていくような作業が続き、そのなかで自然と連携体制や信頼関係も構築されていったといいます。

では、在宅訪問を今後始めたいと考えている薬局薬剤師は、どのようにきっかけをつかめばよいのでしょうか。「私のときは状況が違い、今は各地域で在宅医療が進展し、薬剤師の介入も進んでいます。ですから、地域の多職種連携の会合でも勉強会でもよいので、まずは顔を出して、一度、現場に連れて行ってもらってください。その空気を味わったときに、患者さんやご家族の思い、不安、悩みなど、いろいろな気づきがあるはず。それが出発点になります」とアドバイスをくれました。きっかけをつかめば、「あとは行動と継続あるのみ」で、実際に学び、その経験を広げていくことが、「何よりの近道」といいます。

● 何に注意すべきか？

信頼の礎は「言葉遣い」、 対物業務の効率化で訪問に集中

実際に現場に出る際の注意点として、池田薬局には一つのルールがあります。それは「言葉遣いと伝え方」です。患者さんやご家族には、「がん」や「認知症」などの言葉を、たとえ疾患がそうであっても、決して使いません。がん患者さんであれば、「患っていらっしゃる場所」や「腫れもの」などに言い換えます。認知症の患者さんには、「物忘れ」という言い方もせず、「お薬が飲めていませんでしたが、その回数を減らしていきましょうね」などと、普通の会話のなかに織り交ぜるようにします。

「そうした接し方は、必ず患者さんやご家族の心に通じます。それまで治療のなかで散々耳にし、辛い思いもしてきたわけですから」と池田先生。在宅訪問では、薬剤師には「聞き

手」としての役割も期待されていますが、言葉遣いにも配慮した関わりの積み重ねがあってこそ、「心を開いて悩みなどを打ち明け、医師などには言いにくいようなことも吐露してくれるようになる」といいます。服薬指導・支援、服用歴管理など、薬剤師としてのスキルの発揮はもちろんのこと、「それ以上に重要な要素です」と強調します。

池田薬局では、新入研修などの際に力を入れていることもあります。それは、「疾患をイメージすること」です。た



池田薬局の訪問薬剤師のみなさん。「個人宅重視」という同じ志で集い、総合病院や大手チェーン調剤薬局からの転職組もいる

例えば、食道がんの患者さんなら、がんが大きくなっていくと何が起ころ？⇒食べ物が食べられなくなる⇒もっと大きくなるとどうなる？⇒呼吸が苦しくなる⇒さらに大きくなると？⇒最後は窒息する可能性もある—というような経過です。「それがあるとないとでは大違い。現在の患者さんの症状から、その先の状態をイメージできれば、こういう薬があったほうがよいのではないかと、医師と話すきっかけになり、前もっての処方提案にもつながるのです」と、池田先生は意義を語ります。

一方で、心構えとして意外と見過ごしやすい点もあります。「在宅訪問は移動あってこそ。1日数件となると体力勝負ともいえる」と注意を促します。訪問を終えて薬局に戻れば、報告書作成などの事務作業をこなす労力も必要です。そのため、訪問業務(対人業務)の質の維持・向上を図るうえでも、そこに集中できるよう、調剤業務(対物業務)はできるだけ効率化する必要があります。

池田薬局でも全自動分包機や錠剤監査機などを導入するほか、医療事務・調剤補助の職員を20人ほど雇用し、タスクシフト／シェアも進めており、介護保険の「居宅療養管理指導」で必要になる利用者との契約なども事務職員が担当しています。「学べるし、きつくない、という環境を整えることが重要で、『思い』だけでは続かない」と考えているからです。このような環境をいきなり整備するのは難しいですが、人材確保と設備投資を段階的に進め、持続可能な体制を構築する必要があります。薬剤師は「薬剤師免許を持つ者しか行えない業務になるべく専念できるようにする」ことがポイントといえます。



「ベッドサイドの医療こそ在宅医療」と、当初から外来調剤は念頭になかったという池田先生

るような場合でも円滑な情報共有が可能です。退院時カンファレンスに参加できない場合も、出席している他職種からリアルタイムに情報を入手できるという利点もあります。

ここまでで在宅訪問がある程度イメージできたとしても、一步を踏み出すには「24時間対応」を考えると躊躇してしまうかもしれません。実際、池田薬局では今年の元日に9件の呼び出しがありました(下の画像参照)。現在の休日・夜間の体制としては、患者さんの変動を踏まえて6カ月ごとに当番表を作成していますが、もちろんこれは、13人の薬剤師のうち10人が常勤だからこそその対応であり、小規模薬局、特に一人薬剤師の場合にはハードルが高いといえます。「ただ、それも覚悟の問題ではないでしょうか。趣味などのプライベートの時間も確かに大切ですが、『私は在宅訪問の仕事が好きだからやっています』と言えるかどうかだと思います」と心構えの重要性を説きます。麻薬を扱っていれば、深夜・早朝に呼ばれることは当然あるものの、前述のように、「がん末期の患者さんの経過がイメージできれば、場合によっては緊急の呼び出しがかからないよう、前もって処方してもらうことも可能であり、そうした工夫はしている」そうです。

小規模薬局の場合は、「在宅協力薬局制度」が設けられており、近隣の薬局との連携で対応する方法もあります。ただし、「単に24時間対応という視点だけだとうまくいかないケースもあると思います。同じような熱量、レベル感で目線を合わせて連携できるかどうかポイントで、調剤報酬等の算定にあたりルール決めなども必要になってきます」と教えてくれました。

●多職種連携のコミュニケーションツール「メディカルケアステーション」(MCS)



●なぜ踏み出せないのか？

24時間対応は「覚悟次第」、連携なら同じ熱量・目線で

現場に出れば、多職種連携におけるコミュニケーションが必須となりますが、実際にはどのように行われるのでしょうか。「以前は、情報共有の手段といえば電話やメール、FAXで、手間や時間がかかり、それをつまづくケースもありました。しかし、今はSNSという便利なツールがあるので、それが活用されています」とのこと。池田先生が紹介してくれたのは「メディカルケアステーション」(MCS)という、いわば医療従事者用のビジネスチャット。福岡県では最も導入されており、基本的に無料で使えるそうです。文字情報や画像・動画の共有により、多職種間で容易に密なコミュニケーションをとることができ、神経難病の患者さんで50人ほどの多職種が関わ

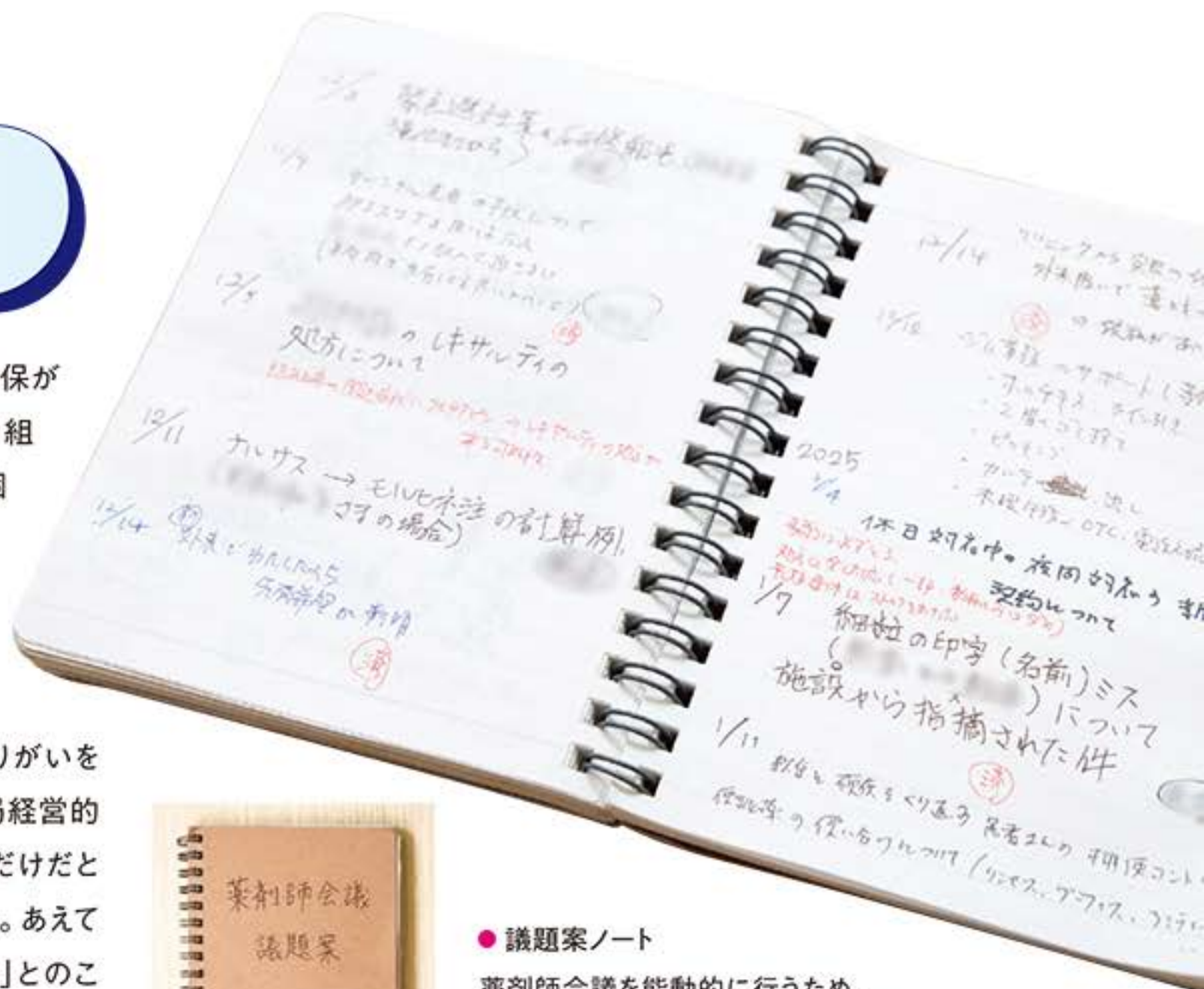
● 仲間をどう集め、育てるか？

「志」は同じでも知識やサービスの平準化が重要

24時間対応の観点からも薬剤師の人材確保が重要になります。池田薬局ではどのように取り組んできたのでしょうか。「その点は、当薬局が個人宅を基軸としてきたことが強みになっています。各地域で在宅医療が進展するなか、在宅を志す薬剤師の価値観も変化しており、個人宅で患者さんやご家族と密に関わり、多職種とも密に協働していくことにやりがいを感じる人が増えています。薬剤師としても薬局経営的にも効率が良いのは施設在宅ですが、それだけだとモチベーションを維持するのは難しいでしょう。あえて個人宅を選ぶ人が集まってきてくれています」とのこと。常勤薬剤師は勤続4年以上が5人おり、なかには介護休職を経て復職した勤続12年の人もいます。

同じ思いで集まった仲間の期待に応えるためにも、定着に向けて教育・研修には力を入れています。薬剤師会議を週1回行うほか、事務職も含めた全体会議も月1回開き、在宅医や訪問看護ステーションの看護師などの外部講師を招いた研修会も年2～3回開催します。この研修会では、自局以外の在宅医療に関わる多職種などにも声をかけ、「地域の研修会」としているのが特徴です。また、自局では事務職も含めて外部研修会に参加することもあり、直近では「エンド・オブ・ライフケア」をテーマに、死が差し迫った人の支援における傾聴の重要性などを学んできました。

薬剤師会議では、だれでも自由に議題を記入できるノートが活用されています。日々の業務で生じたミスや疑問、不足している知識をはじめ、麻薬の計算といった具体的なテーマも



● 議題案ノート

薬剤師会議を能動的に行うため、各人がいつでも、気づいたときに書き留めることができるようにノートを用意。日々の業務なかの生きた題材が拾い上げられている

あり、機械の不具合などの注意喚起も見られます。ミスは包み隠さず申告し、各人が気づいたことを、その時点でどんどん書き溜めていきます。つまり会議は、現場の生きた題材を拾い上げ、共有・議論する場として機能しているわけです。実際、ノートにはびっしりと書き込みがあり、初めて見た薬剤師は強烈な印象を受ける人が多いそうです。

議題の一例として、直近では「排便コントロール」が取り上げられています。高齢者では食の変化や日常生活動作レベルの低下、薬剤の服用などによって排便障害が起こりやすく、便秘薬が使用されることが多いため、その関連知識を整理しました。まず、池田薬局では、どの患者さんも便秘の状態を把握し、▽軟便と硬便が続くのか？▽ただ出ないのか（硬便が圧倒的）？▽直腸まで下りてきていないのか？—の状況を便秘になっている日の間隔からたどり、その背景として▽適正水分は取れているのか？▽健康なときの便秘既往歴▽下部尿路障害はないか？▽麻薬など抗コリン作用が強く極度に便秘になるような薬剤が使われていないか？▽動けていない（臥床状態が続いている）のか？—なども探ることを再確認。そのうえで、▽効きすぎる便秘薬だと、個人宅を1人で訪問している看護師やヘルパーでは手に負えない、ひどい下痢となって、緊急で訪問看護師やヘルパーが呼び出される場合もある▽排便コントロールはコメディカルオペレーションを左右する大きな問題であるため、最近の処方傾向では効きすぎる薬剤を避け、穏やかな下痢、少し便秘気味にしても形が砕けな



薬剤師会議の様子。
この日の議題は「栄養補助食品」で試食も行った

「在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料」の算定回数が薬剤師ごとに集計されている。各人がそれぞれの思いで取り組み、患者さんの在宅療養に貢献した、いわばトロフィーだ。決して数を競うことが目的ではない

し、看取りに至ったケースです。訪問看護師さんのコメントにあるように、ご家族は最期に自宅で看取れたことに大変満足している様子で、実は、MCSには亡くなった患者さんとの写真もアップされているのです。その写真のなかで、患者さんの傍らに立つ娘さんはピースサインを作って微笑んでおり、それがご家族の気持ちを象徴しているように感じられました。

「患者さんにご家族が自宅に帰ってきて本当によかったと思えること。医療側も帰してあげられて、関わってよかったと思えること。そういう在宅医療をこれからも追い求めていきたい。個人宅では本当にドラマが待っており、医師や多職種と細やかに連携するなか、選択する薬によっては数カ月だった余命が半年、1年と延びた例もあるのです。患者さんもご家族も幸せになるよう、心から在宅医療に関わっていきたい——。その思いを共有できる薬剤師が一人でも多く増えてくれることを願っています」と、最後に熱く語ってくれた池田先生。実践者が発するその言葉には、ずっしりと重みがありました。

事例1 外用抗真菌剤のローションをスプレータイプに変更提案し、患者さんの使用感と症状の改善につながった

看護師
(訪問看護ステーション)

1/14 21:49

桐谷先生へ。
頭皮に塗布するケトコナゾールのローションはベタベタするので塗布したくないそうです。でも、赤みと痒みがあるので、今日は薄くベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩のローション塗布してみました。何かサラサラした痒み止めがあれば処方お願いします。

薬剤師
(池田薬局)

1/15 11:08

お世話になります。
ケトコナゾールのローションがベタベタするとのことでしたので、ケトコナゾールのスプレーのご使用はいかがでしょう。
ローションではなくスプレーにすることで、サラサラして使いやすいのではと思います。

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/15 14:58

本日、訪問しています。ケトコナゾールのローションはベタついて気持ち悪いとのことですので、ケトコナゾールのスプレー試してみることにします。その他、現行治療にて経過を見たいと思います。次回、1月29日の訪問予定です。

薬剤師
(池田薬局)

1/16 20:12

本日16時頃配薬します。
ケトコナゾールのスプレーは訪問時、手に試し打ちしてみました。
液体が霧状というよりは、勢いよく液体を噴霧できる感じのため、ご自身で使用する場合はティッシュなど清潔なもので、間接的に使用するほうがいいかもしれないですねとお話しています。
べたつきに関してはサラサラしてるね、との反応でした。

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/29 14:52

本日、訪問しています。
ケトコナゾールのスプレーは使用感がよいとのこと。頭部の湿疹自体も改善傾向です。全身状態も落ち着いています。

事例2 既往疾患の確認が不十分で処方提案の妥当性を医師に問われた

薬剤師
(池田薬局)

1/17 17:52

最近便秘気味で4日排便がない。昨日はピコスルファートナトリウム水和物の内用液を飲まず本日飲むとのことでした。以前処方されていたセンナエキスとピコスルファートナトリウム水和物の内用液を便秘時にどちらか飲まれていたようです。ピコスルファートナトリウム水和物の内用液10〜15滴では排便ないときあり。内用液の残薬1〜2回分です。
桐谷先生へ
1/16処方エロピキシパット水和物の定期処方(19日分)追加、ピコスルファートナトリウム水和物の内用液 便秘時 10ml 追加
上記処方のご検討のほどよろしくお願いいたします。

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/17 17:53

エロピキシパット水和物は当院での処方歴があるということでしょうか？

薬剤師
(池田薬局)

1/17 18:01

処方歴はありません。次回往診時にご検討よろしくお願いいたします。

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/17 18:06

次回ですか？

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/17 18:11

2023年5月、2024年10月に胆管結石性胆管炎を発症していますが、緩下剤としてエロピキシパット水和物は妥当だと考えますか？

薬剤師
(池田薬局)

1/17 18:15

申し訳ございません。
処方歴がないと往診なしでは薬追加できないと思い次回と言いました。

医師 桐谷 浩一
(医療法人医和基会 金刀比羅診療所)

1/17 18:15

追加するのは構いませんが、エロピキシパット水和物が妥当でしょうか？

薬剤師
(池田薬局)

1/17 18:17

申し訳ございません。胆管結石性胆管炎の既往歴を失念していました。エロピキシパット水和物は妥当ではありませんでした。

事例3 患者さんは自宅に戻って最期を迎え、それを看取ったご家族はピースサインを作り、微笑みながら、お化粧をした患者さんと写真を撮った

医師
(在宅クリニック)

2024/12/27 19:41

本日午後、モルヒネ4%5ml2A+ハロペリドール1Aトータル11mlで流量1時間0.05mlを開始させていただきました。CVポートの側管からとさせていただいております。(フェンタニルのテープは除去)
●●●訪問看護さま、池田薬局さま、お忙しい中柔軟にご協力いただき、大変助かりました。

医師
(在宅クリニック)

2024/12/28 00:16

先ほど、看護師●●様よりご逝去の連絡をいただきました。22時36分、死亡確認とさせていただきます。
皆様、どうもありがとうございました。
■■■様のご冥福をお祈りいたします。

看護師
(訪問看護ステーション)

2024/12/28 01:45

ご主人様は「本当は家に連れて帰っても何もできないし、病院がいいと思っていたけど、帰ってこられてよかったと思います」と涙流されており、いつも毅然としていた長男様も目頭を熱くしながら、いつもほとんど口を利かないお父様と話している様子が見受けられました。
長女様は、「おしゃれな母親だから最期は綺麗にしてあげたい」と■■■様らしい素敵なお洋服と一緒に着替えし、長男様のスーパー美容師が作ってくれたウィッグを装着、お化粧していただきました。
■■■様のご冥福をお祈りいたします。

薬剤師として 患者さん一人一人にしっかり関わり 言動から「納得感」を与えられる 在宅訪問を

医療法人医和基会 金刀比羅診療所
桐谷 浩一 院長

池田薬局さんとは6年以上の付き合いになりますが、その一番のポイントといえば、やはり「フットワークの良さ」です。当院では、がん末期の患者さんを含め、看取りに積極的に対応しており、年間60件以上の実績があります。看取りというのは、いわば在宅医療における救急対応であり、それには麻薬の投与が欠かせません。ですから、必要な麻薬を薬局に依頼したら、必ずその日のうちに届けてもらえることが絶対条件となります。しかし、池田薬局さんのように、365日24時間対応してくれる薬局はまだ少ないのが現状なので、この北九州市で患者さんが安心して在宅療養できるのも、池田薬局さんの存在があるからと言っても過言ではないと思います。

もちろん、池田薬局さんをはじめ、訪問薬剤師さんには薬剤の専門家として、服薬指導・支援、服用歴管理、処方提案などにも職能を発揮して支えてもらっています。在宅で療養している患者さんにも、さまざまな疾患

の患者さんがおり、医師はかなり広範囲な知識を求められるものの、薬剤に関してはすべてわかっているわけではありません。当院は神経難病の在宅患者さんも比較的多いのですが、治療に使える薬剤が少なく、新薬が出ればすぐに処方したいというケースもあります。実際、そのような場合に薬局へ問い合わせると、「いつでも届けられます」という返事があり、情報を先取りして、しっかり準備してくれている。そういう薬局・薬剤師さんの存在は本当に頼もしく、心強いですね。

訪問薬剤師さんは、患者さんやご家族のお話の「聞き役」としても期待されていると思います。「医師には言いたくても、なかなか言えないことがある」とよくいわれますが、在宅医療の現場も同じで、本当は医師として治療に活かしたい情報であるわけです。それを、訪問薬剤師さんがうまく引き出し、ちょっとしたことで情報提供してもらえるのは、非常に助かります。池田薬局さんはそのあたりも、とても親身に対応しているようで、担当制になっていることの意味が大きいのではないのでしょうか。毎回違う人が来るのと同じ人が来るのでは意味合いが全然違いますから、当然関係性も深まるといえます。

在宅医療のニーズは今後ますます増えていくでしょう。その一方、医療界にも生成AIが浸透してきているなかで、私たち医療職の存在意義が問われてくると思います。それは何かといえば、やはり患者さん一人一人にしっかりと関わり、「この人に言われたからそうしよう」と思ってもらえることに大きな価値が出てくるのではないのでしょうか。合理的な正解はコンピュータが出せても、要は人間としての納得感がより重要になってくるはずです。薬剤師さんとしては、その究極の形が「在宅訪問業務」だと思いますので、そこを目指してもらい、我々医師も同じ視点で力を合わせていきたいと考えています。

(取材日：2025年1月23日)



金刀比羅診療所（福岡県北九州市戸畑区）

機能強化型在宅療養支援診療所（連携型）。在宅患者は約200人で個人宅と施設は半々。医師は常勤1名、非常勤3名で、非常勤には精神科の医師1名が含まれる。桐谷院長も認知症サポート医で認知症患者さんに対応するが、うつ病や統合失調症などの専門領域にも対応できるのが特色だ。